

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	表現として抽象的でつかみにくいところはあるが、基本方針で明確化している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会等を通して浸透を図っており効果はでている。また職員会するときなどに機会を持ち、理念の浸透に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ひだまり通信を通して理解してもらえるようにしている。 納涼祭等の行事を地域の皆さんと一緒に実施。地域の認知症の研修会を通して理解していただいている。		ひだまり新聞を活用し、そこに必ず取り上げている。また運営推進委員の地域の民生委員さんにおいて回覧板で回してもらい地域への浸透を図りたい。(次回より予定)
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	車の通日も多くなったため門外は一人の付添いでは危険なため、敷地内で散歩を済ませるようになっていく。近隣の人たちと顔を合わせることで体がほとんどない状態である。職員も車での通勤であり会釈程度になってしまっている。		夏は畑等通じて2～3名の関わりがあるが、冬場は外部との接触がないため更なる努力が必要だと感じる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会との納涼祭の共催等実施しているが、外部へ積極的に働きかけなければ孤立は否めず独自に何か始める事も必要と感じている。		開設から7年が経過し独自に何か始める時期にきているかと考える。また適切なところにボランティアを受け入れる中で、活性化を図っていきたい。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームに勤める者としてきちんと学んで正しい情報を地域に還元していくためにも、定期的な勉強会を行っている。 また、要介護状態のご利用者のご家族に対し、デイサービス利用日以外の面会時の昼食の提供を行っている。		地域に市営住宅がありそこに独居のかたもいると聞く。地域の認知症の拠点として安心していただけるように来年度は認知症サポーター養成講座を開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義の理解は当然しているしスケールとして利用し活用している。自己評価は職員会と別に数ヶ月に渡って設定し全職員(パート含む)で行っている。その中で改善点が挙げれば直ちに着手し日々のケアの方向性の確認をしながら検討している。また結果は回覧されるとともに職員会で扱っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災時や地域交流の支援をお願いしている。		メンバーのうち、第三者的立場の方に、家族会に出席していただき家族からの要望を聞いていただく事をしたいと考えている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保険者が同一の組織であり、市町村とも入隊居時の連携等、図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を2回(4・8月)に実施している。それにより理解を深めた。個々の必要性についてはこれからの課題である。		法律が絡むことは難しいので継続的な勉強会が必要だと考える。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のたびに触れ浸透を図っている。2月の勉強会で全文を読み合わせ予定。		定期的な勉強会を開催していきたい。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>実施している。特に退居時の説明・同意その後の相談支援を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員により、利用者の聞き取りが行われている。また利用者から苦情が寄せられた時には苦情受付し適切に対応できるようにしている。日々の生活、モニタリング時、家人来所時等機会を捉えて聞かせていただけるよう努力している。</p>	<p>苦情をあげやすい環境を作っていきたい。あげられた苦情については職員会で検討してよりよいケアに結びつけていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的には家族会の折になるが、それ以外に面会時に日々の様子を知らせたり、必要時にはこまめに電話連絡して報告している。また、家族会のお知らせに併せて担当者より近況報告をしている。</p>	<p>なかなか連絡がつきにくい家族への対応について少しでも改善されるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時や電話連絡等の中で聞き取れるように努力し、言い易い雰囲気心がけている。また、家族会開催時、ご家族だけでの話し合いの場を提供し提言がしやすいように配慮している。また、そこで聞かれたことについては全職員で共有し反映させている。</p>	<p>13に同じ</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>反映されるように職員会を通して提案するが、なかなか受け入れが難しい状況である。</p>	

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予定できる日程については厚くするとか、時間をずらすなどで対応しているが、突発的な事案については、超過勤務等で対応せざるを得ない。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員について、信頼を得ている職員と二人で対応する等、行っている。		
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々で自己研鑽のため研修に参加する以外、職員会を利用して隔月で職員同士による勉強会を行っている。		勉強会については継続して行っていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内のグループホームへ利用者と職員で出かけた。		県宅老所グループホーム連絡会を通し、特に管内の事業所とのネットワーク作り、相互評価が行える様な仕組みを構築したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生について、互助会を通じた活動の実施。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	資格の取得や自己研鑽に対する支援。		平成21年度から、臨時職員について嘱託職員とし、月給化する予定であり、職員の処遇改善に取り組みたい。
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	電話や面接にて細かなご相談や説明をしている。		入居に関し、短い時間のなかで、施設見学をしていただく等、環境変化のダメージができるだけ無い様にしていきたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	同上		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	同上		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	できていない。入所日が来ると、本人が来てその時から生活が始まる。		入所前に、来所いただき、一日を過ごしていただく事も検討していきたい。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>そのように努力しており、そのための勉強会もしている。</p>	<p>大事なことであり継続して双方向の関係作りを重視していきたい</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と共に、何がその方に必要なかを投げかけ、一緒に考え、受け止める努力をしている。ただ、連絡のつかない家族もあり全員とは言いがたい。</p>	<p>できてはいるが、全員の方について築けるように努力していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>こまめな連絡など、利用者が家族にとって遠い存在にならないようにきめ細かく対応している。症状が進むにつれ外泊は減っているが、盆・正月だけでもお願いして家族も対応してくれたり、外泊が無理な場合は外出という形で対応してくれている。また、誕生日には一緒にお祝いできるようにしている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>全員とはいかないが6人中5人の家族との関係は良好である。ただ本人がこれまで築いてきた周辺の部分については関係の把握も難しく、施設側として働きかけることについて個人情報等考えるとためられるものがある。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を的確に把握し、上手に関わられるような橋渡しができるように心がけている。働きかけによって利用者を巻き込んで集団としての力が発揮できるように努めている。</p>	<p>職員個々のコミュニケーションスキルを磨いていきたい。少人数のGHであり重要であるので、関係の把握にいっそう努めていきたい。</p>

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一旦関係が切れると困難であり、退所者が継続的に関わりを必要とするかどうか、現場では判断しにくい面はある。 ターミナルを在宅で希望された方について、その後の支援を実施した事例あり。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の言動等を注意深く観察し、聞き取り、表面上だけにならないようその言葉の奥にある思いを受け止めるように努めている。言語が不自由な方についても、その方にとって何が1番なのかその思いを汲み取る努力をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、日々の会話、家族からの聞き取り等により把握に努め、またその方の思いに馳せるように努めている。		一度情報収集してしまうと、それで満足してしまう。個別で抱えている情報も多く情報の共有化が重点項目として挙げられる。今後ケース記録におとすことで共有化を図りたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できること・できないこと・したいことの把握に努め、少しの支えで今まで通りの生活が維持できるように努めている。センター方式のシートを活用により必要時個々の変化の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成時心がけている。利用者・家族の意向を汲み取り、原案を職員会で検討し、全職員の意見を聞いて作成している。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		<p>重要でありケアプランに直結するので引き続き行っていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入退居時、特に退居後のサービス移行について、包括との連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医については、入所時に了承を得た上で嘱託医の受診を受けている。また、病院精神科との訪問委託契約や歯科医については、家族・本人の希望を聞き訪問診療を依頼している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	5名については専門医の定期的な受診をしている。また、それに対応できるように勤務を組んでいる。何かあるときには相談し、次回の受診まで待てない時には電話をすると指示してくれる。1名についても近くその予定である。		1名が専門医未受診である。認知症専門の施設なので全員が受診できるようにしていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師が支援してくれており、細かい相談にのってくれたり、必要のある時には主治医に連絡をとってくれている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族にとっても、施設にとっても安心して入院とはいかない。ただ入院はダメージも大きいため師長クラスと都度協議している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時・急変時については入所時とそれ以降状況変化に応じ意向を文書にて把握している。また、終末期や重度化については予測される中で家人とDrが話し合う機会をもっている。対象利用者ごとに実状に合わせてカンファレンスを通して方針を共有している。		ターミナルについては一件経験したが、スタッフの困惑も大きかった。状態に応じて繰り返しの話し合いの中から方針の明確化と共有が図れるかと感じた。今後についても望む・望まないに関わらず出てくるのが容易に予測されるため、勉強会が必要かと思える。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>行えている。看護師・栄養士・スタッフ・家族・Dr・包括等巻き込んで検討、準備を行っている。また、状態に合わせプランを変更しそれによってケアの統一を図っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ひだまりはひだまりで完結してしまい、情報の引継ぎもできていない。入院から退所の例が多いので、この情報はここで止まってしまっていていない。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>心がけており倫理観や人権について勉強会をして学ぶことにより、意識せず発しているかもしれない傷つける言動を抑制するように職場全体で取り組んでいる。ただ、倫理観等は個々人の内面に左右されるため差があり機会のある度に話し合う必要性があると考える。記録についても情報開示等念頭において不快のない記録の整備に努めている。</p>		<p>人権・倫理観・個人の尊厳と根底に非常に重要なものを抱えているので繰り返しの再確認をしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>生活の様々な場面で選択の場はあるが、意識してその場を作り出していく必要があると感じる。本人の力を把握して、その支援を心がけている。</p>		<p>自己決定を待てるゆとりを持てるように全職員で努めていきたい。</p>

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に気持ちのゆとりが必要で、それがなければ難しいと感じている。職員同士の認識の違いもあり利用者優先の職員が業務優先の職員と組んだ時には業務優先になってしまう。ただ個々のプランにも入れてあり努力はしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各担当で努めている。美容院は本人の希望を聞き、それに添うようにしている。また、プランにあげている利用者もある。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できているが、夕食の準備について弱いので、意識して提供していく必要性を感じる。同じ家事でも、各利用者の得意な分野で力を発揮できる環境を提供している。		夕食作りの部分が弱いので意識して提供していきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・タバコについては嗜好なし。糖尿病の関係はあるが好みにそって1,600Kcalの中で提供している。行事食について、アルコールの提供を実施。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、それぞれのサイクルに合わせてトイレ誘導や排泄用具の使い分けをしている。またリハパンから失禁パンツへの変更も見られている。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行・家族会等で実施。また時期によりドライブや墓参を実施している。		今後も継続していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には個別に対応している。手紙については、書くこと自体が困難になってきている状況もあり希望がみられない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家人との連絡は密にしているが、入所に伴い友人・知人との関係は疎遠になる傾向にある。時折訪問もあるが本人が認識できない。施設として家人への働きかけは積極的に行っている。現在、入所者の家族が定期的に来所(週2回)し、昼食を共に楽しんだりしているが居心地のよい環境の提供を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会をして理解を図っている。今年はどうしてか？からの勉強会を行い、昨年疑問を残した職員に勉強会を担当してもらい更なる理解を図った。		継続的な勉強会をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	65の勉強会で扱い済み。施錠は行っていない。		65に同じ。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	センサー作動時にはただちに確認することを徹底している。また、施設の配置構造が利用者を確認しやすくなっている。それと共にこまめな所在確認は行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・漂白剤等の在庫については、倉庫に施錠して保管している使用中の物品については、目につきにくい扉の中に保管している。利用者が使用する物については、その方の状態によって個々に対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急処置法については、消防署に依頼して実施済み。個々の事故防止については職員会の際に個別のケアプランの評価の折に出てくるので、きめ細かく対応策について扱っている。また、ひやりハット提出時には検討して再発防止に努めている。		事故を起こさないケアをしていきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	69に同様。またマニュアルを活用している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	併設施設とともに防災訓練を実施している。地域との連携については地元の方と協同して行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々本人の状態によりリスクについて説明し同意を得ているその際にあらためて本人の望む生活を確認することで対応策について話し合っている。また、ひやりはっと発生時にはその報告をすると共に検討結果にともなったプランの変更やそれでよいのか相談をしている。		

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックや毎日の入浴により全身状態の把握はできている。それに加えた小さな変化を見逃さないようにし、フローシートと記録の活用により情報の共有を行い、受診等早期に必要な手段を講じている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>できるように努力している。薬の内容が変更になったときにはDrに報告できるように状態観察・記録の整備に努めている。</p>	<p>今年度ひやりはつとがでているので防止のための検討案の徹底遵守を心がけたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>できている。体操・竹踏み・ストレッチ等による適度な運動を行い、食事摂取量・飲水量の把握に努め、飲水が不足する人にはスムーズに進む方法を提供している。また、個別の排泄サイクルを把握し、個々にアプローチしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>個々の状態により、適切な介助方法により毎食後の口腔ケアに努めている。また、定期的な歯科医の訪問診療による口腔ケア指導も取り入れている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスについては、管理栄養士がたてた献立を基に行っている。水分量については、個別に把握し既往症等も視野に入れ適切な水分量がスムーズに摂取できるように援助している。食事量についても個別に把握し、力が落ちてきた人に対しては個別に援助(食事形態・補食等)している。</p>	

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	できている。マニュアルもあるが、情報収集を積極的に行い、先さきに向けた対応策を徹底するように努めている。勉強会の開催やノロウイルス発生時の対応キッド作成やインフルエンザ対策の温度・湿度管理まで細かく業務の中に組み入れてある。		予防の徹底と決められたことの徹底遵守を図りたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	できている。ふきんは使用する度に消毒、日に1回の調理器具の塩素消毒、食材の管理、その都度調理し作りおきしない等徹底し78に加えて行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を飾るなどして親しみ易さは求めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すだれや採光部にカーテンを使用して工夫している。季節の花々を飾り、干し柿を作ったり、繭玉・七夕・クリスマス等年中行事を生活に取り入れ季節感を大切にしている。静かな環境、居心地の良いスペースの提供を心がけている。		居心地の良い環境としてのスタッフの関わりを重要視していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に椅子とテーブルを置いてあるが、活用されることが少ないので居住スペースの少し離れたところにソファを提供して活用してもらっている。		居住スペースのソファについて目隠しになるものを考えるが安全性を考えるとなかなかいいものが見つからない。何がよいのか考えたい。

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努めている。出来ていない方についても本人と家族と担当職員の間で調整して、落ち着いて過ごせる環境作りに努めていきたい。ただ、そうして工夫する一方でADLの低下に伴い躓きの原因となるものをなくしたりして状況に応じた環境作りが必要と考え、状態によって調整している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	なおについては気にならないように配慮している。温度調整については快適に過ごせる温度が活動量に大きく影響するため、利用者が快適に過ごせる温度管理をしている。特に冬場のインフルエンザ対策としても温度・湿度管理を行い、5時・10時・13時の換気を申し合わせ徹底を図っている。温度調整については床暖・ストーブ・エアコンで調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能を把握し、それに伴って自立した生活の継続に必要な環境の整備を行っている。(ベッドを替えたり、ベッドやソファの高さを調整したり)		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の分かる力を把握し、活用している。一律の対応は行っていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	環境整備には努めているが、活用に至っていない。		利用者に新しく活用してくれそうな方が加わったので、来年度はプランターを置くなどして援助していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

認知症対応型共同生活介護施設ひだまりの家

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所につけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業主体が広域連合である事、養護老人ホームに併設となっている事、利用定員が6名である事等他のグループホームには無い事業所自体の特徴があります。この特徴を最大限のメリットとして併設施設との協働や他機関との連携、地域交流に活かせる様な支援、夜間入浴等あたりまえの「普通の暮らし」ができる事を大事に考えています。
また、ご利用者の要介護状態にあるご家族の、在宅でのインフォーマルな支援を担う等、可能な限りでの地域への支援を行う事も公立の施設の使命と考えています。